

酒米生産で就労支援

障害者の活動 面積拡大、日本酒販売も 後押し2年目

【ちば】大網白里市の農家が運営する障害者就労移行施設、特定非営利活動法人（NPO法人）シヨブファームの酒造好適米「五百萬石」の生産が2年目に入った。日本酒にして販売し、障害者の活動を支援する。今年は栽培面積を25㍍から57㍍に増やし、4000本（720ミリ）を生産する計画だ。



あぜを回って雑草を取る同ファームの通所者と指導する従業員

千葉県大網白里市 ジョブファーム

今年も無農薬で栽培する。同ファームの高橋正己代表は「今年は丁寧に代かきをして深水管理してきたことで、田んぼでは雑草の発生がほとんどない」と話す。昨年利用した除草機は使わず、通所者と従業員ら7人で畦畔（けいはん）を回り、あぜから侵入する雑草を引く抜く作業をした。肥料は有機質肥料だけを使い、昨年の収量（1・1㍍）の約2倍、1・8㍍を目指す。

「五百萬石」での酒造りは、障害者の活動を支援する一般社団法人ハッピーチョイス（東京）が、同ファームに酒米生産を依頼、いすみ市の木戸泉

酒蔵が醸造し「飲んだ人が幸せになるように」と「sachi」と命名。1年目は2000本（720ミリ）を醸造した。

白里市の酒店などで販売。「フルーティーで香りがあり、少し酸味がある白ワインに近い味わい」として、女性や白本酒の初心者に好評だった。現在、火入れして安定させた「火入れ原酒」としても販売する。

企画・販売するハッピーチョイスの白根邦子代表は、日本酒を「ハレの日に飲む、ハレの日に贈る、幸せと感動を届ける酒」として、「結婚式場や

結婚する人への活用に力をいれたい」とPRに力を入れる。ハッピーチョイスは、障害者を持っていても最高の生産者になることを証明したいと設立した。今後、障害者が作った豆腐を使った豆腐懐石料理の店を作り、障害者雇用を生み出すことや、「豆腐に合う日本酒」として、和食とセットなどを提案し、障害者が生産した商品を広く販売していく。

副知事にメロン贈呈

千葉県生産者ら品質PR



高橋副知事（前列右から2人目）にメロンを贈呈した関係者ら（4日、千葉市で）

【千葉】JA長生施設野菜部会アールスメロン部の生産者やJA、一宮町の関係者が4日、千葉市の千葉県庁を訪問。高

橋副知事に出荷の始まった「長生（ながいき）マスクメロン」を贈呈した。長生地域のメロン栽培

は40年以上の歴史がある。同部は現在、一宮町と白子町の生産者28人が7畝の温室で栽培する。一つの株に一つの実しか

【埼玉・いるま野】川越市鳥獣被害防止対策協議会はこのほど、同市中福の圃場（ほじょう）で「獣害防止柵の研修会」を開いた。JAいるま野が協力し、地元農家や関係者ら10人が参加。アライグ

電気柵で被害防げ 埼玉県川越市鳥獣被害対策協議会
アライグマ対応学ぶ

マの生態や、農作物の被害防止における電気柵の有効性などを学んだ。県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当の古谷益朗部長が

3年 参完

議論が必要」との岡田氏。同連盟幹事長を務める言している。郡司氏も、大TPP問題では「情報を出



古谷部長

卵を目撃したと、



生花